

第6回網走湖汽水環境保全方策検討委員会

議事要旨

日 時：令和7年3月7日

会議形式：Web 会議システムによるオンライン会議

1. 今年度における試行的対策の結果報告

(1) 事務局より資料1を用いて、今年度における試行的対策の結果概要を説明した。

(2) 主な意見は次のとおり。

ア. これまでの実験で塩分を上昇させる効果は十分みられている。フェンス底の貧酸素化のリスクは見られるが、導水方法の改善の試行を繰り返すことで改善していくと考えられる。

イ. 今回の実験の目的である塩分を上げるという点からは、非常に良い結果が得られた。実験の中止については、現在の網走湖の塩淡境界層水深が浅く、やむを得ない判断であったと思われる。

2. 次年度における試行的対策の実施内容

(1) 事務局より資料1を用いて、次年度における試行的対策の改善内容を説明した。

(2) 主な意見は次のとおり。

ア. 底生動物はフェンス内外で明確な差が表れていることから、調査を継続した方がよい。

イ. 今年度の結果を踏まえて、次年度の塩分成層をコントロールする方策はいいアイデアだと思われる。

ウ. 汽水域を自然の力を借りながらいかにヤマトシジミの産卵環境の保全に繋がられるか考えていく必要があり、そのためには大曲堰をうまく活用するなど様々な方法を今後検討していく必要があると思われる。